主日礼拝

2025年8月24日 10時20分～

司式:

奏楽:

《神の招き》

前	奏	『ああ、主なる神よ』 J.S バッハ
招	詞	詩編30編6節
賛	美	歌 54

《神の言葉》

祈	禱	聖霊の照らしを求める祈り
聖	書	エレミヤ書20章7～13節 (旧約1199頁)
		使徒言行録20章17～35節 (新約249頁)

子ども説教	交読詩編	詩編57編1～12節 (66頁)
賛	美	歌 528

説	教	「涙の別れ」 八木浩史牧師
祈	禱	
賛	美	歌 569

《感謝の応答》

信	仰	告	白	使徒信条
献	金			
祈	禱			献金当番
主	の	祈	り	(週報表紙、ホームページ掲載)

《派遣》

頌	栄	I - 545B
祝	福	
報	告	
後	奏	

礼拝当番: (役員:)
音響:

献金当番:
映像:

「涙の別れ」

『エレミヤ書』は、11章18節以下から5箇所にわたって記される《エレミヤの告白》の最後の部分です。ヨシヤ王は偶像崇拜を禁じ、エルサレム以外の聖所を全廃し、エルサレムにおいて聖所の統一をはかり、主なる神にのみ従うよう宗教改革を行いました。預言者エレミヤもこの改革に賛成していたのでした。このことは地方聖所の祭司たちから強い反発を招き、エレミヤも孤独状態に置かれ、暗殺される危険にも晒されたのでした。その苦悩の中でエレミヤは、苦しい思いを神に告白します。しかしエレミヤは嘆きだけでなく、共にいて守ってくださる神を崇めます。それゆえエレミヤを攻撃する者は、大いに恥をかくことになるだろうというのです。「主に向かって歌い、主を賛美せよ」と、エレミヤは主なる神を礼拝します。

『使徒言行録』は、第3次宣教旅行の中で、エルサレムに向かおうとしているパウロが、ミレトスからエフェソ教会の長老たちを呼び寄せ、遺言説教を語る場面です。異邦人諸教会で集めた献金を、エルサレム教会に届けることで、両者の結びつきを強くしなければならないとパウロは考えていました。しかしエルサレムに行けば、パウロは逮捕され、殺される可能性が高かったのです。しかし命をかけてでも、パウロは行かねばならないと考えていました。それが神からの使命であると確信していたからです。そこでエフェソ教会の長老たちに遺言を語るのです。人々は心を痛めて激しく泣き、涙の別れをします。しかしパウロの「涙の別れ」には希望が込められていたのです。